ゐのはな同窓会の発展に向けて

渡辺　武

この度，千葉大学医学部創立135周年事業の一環として，ゐのはな同窓会会長を勤めた時期の事業の一端を寄稿するように依頼がありました。

私の担当した時期は，平成15年（2003年）６月から平成19年（2007年）６月までの２期４年間でした。

15年６月総会の日は，折悪しく欠席。というのは直前まで日本プライマリ・ケア学会会長を４年勤め，当日は札幌での学会総会と重なっていました。

諸般の事情から，唐突に私のゐのはな同窓会会長が決定したため総会出席の調節が出来ませんでした。

さて当時を振り返ってみますと，母校は国立大学の独立法人化という大きな問題がありました。大変な事業です。また新しい研修医制度もはじまりました。大学病院へ戻ってくる研修医が，半分にも達せず，医局員の不足から派遣も出来ず，出張先病院も混乱，日本の医療そのものも崩壊の連続でした。

卒業式では，また母校へかえってこい！と懇願さえする教師たち。異様な現場も。

もっとも小泉政治の４年間……安倍，福田政権のあとも自民，民主ともにまともな党首なく，加えて100年に一度のアメリカ発の世界恐慌とつづきます。

会長をやめてから，少し時間が出来，ゐのはな同窓会報を読み直しています。

いろいろな事を回想しています。それにしても会報の編集作業には，関係理事鈴木信夫先生はじめ多くの方々，支部からの協力により毎号特色のある内容には感謝あるのみです。

一方同窓会事務局の10畳間にも満たない狭い所で，しかも千葉医学会とも同居しながらの大変な雑務を我慢していただいていることに対して，早く解決の道をと思うばかりです。

さて総合大学としての千葉大学の在り方については，９学部（文学部，教育学部，法経学部，理学部，医学部，薬学部，看護学部，工学部，園芸学部）からなる校友会（同窓会）があり，年一回の西千葉で親睦をかねたミーティング・校友会がありますが，相互の同窓会の交流はこれからの状況です。詳細は「千葉大学。進化する総合力2007～2008年版日経BP企画」に譲りますが，キャンパスには西千葉，亥鼻，松戸，柏の葉とあり，学生数11011人，大学院生3595人，留学生832人，教職員数は教授453人はじめ，2074人の合計2527人の大世帯です。

留学生支援をはじめとしての千葉大学基金の募集が，行われていますが，一方，医学部135周年記念事業の募金も始まる時でした。100年に一度の世界大不況の嵐のなかでの船出でした。協力は当然のこととして当面の着地点を何処にするか，規模など頭の痛いことが続きます。

いうまでもありませんが，ゐのはな同窓会会員の結束，懇親の場としての同窓会の在り方，運営が，同窓会長としての最大の課題です。会則にのっとり，事を進めるには，会則そのものの問題点をさぐることが，まず課題となりました。

年３回の理事会のほかに庶務，会計，事業の３会務の融合，フリートーキングの場として総務会という協議の会を新しくつくり，９回任期中に活用しました。

この中で会則を改正しました。主な点をとりあげてみます。

第１章　名称，第２章　事務所，第３章　目的は不変として第４章　組織から改正しました。

従来は正会員を甲，乙に分け，甲は千葉大学卒のもの，乙はその他とし，ほかに特別会員と名誉会員としていました。今回は会員を４種とし，甲・乙は統合して正会員とし，ほかに新たに学生会員を入れました。特別・名誉会員は存続です。続いて，要点として，

第５章	支　部	地方支部のほかに，本学に在籍中の会員は学内支部を組織することが出来る。
第６章	役員等	役員の任期は２年とする。
第７章	会　議	常任理事会は原則として年３回開催する（従来は随時）。
第８章	会　務	新設された総務会の運営。
第９章	財　務	従来の資産および会計は財務としてまとめました。
第10章	付　則	別表に学生会員会費　年1000円

入会金5000円（なお正会員は会費年5000円）。

第１回の理事会を15年11月に控えて，論点の整理のために９月５日に同窓会の活性化問題検討委員会（大藤副会長・その後，将来検討委員会と改称）が開催されました。それに基づき９月27日に第１回首都圏ゐのはな支部連合会が開催されました。記念講演として独立法人化を前にして落合教授の“COE計画（Center of excellence）”についての感銘深いお話しがありました。

また東京支部からもIT教室の開催の提案があり，研修医の施設受け入れ機関としての公報活動にも利用されるチャンスに発展しました。医局崩壊の危機に対する対策としても大学のみならず千葉大学関連病院の参加・公報にも役立つことになりました。

一方同窓会の法人化問題については，活性化委員会のもと識者のご意見，他大学の実情をみながら検討を重ねることとしました。

同窓会の事業展開には，３会務（庶務，会計，事業）の密接な連携が必須となり，前にも述べましたが新しく総務会を創設することにしました。

また学生からは，同窓会館についての要望がよせられました（会報140号）。冷房設備が無いため夏は窓を開放し，そのための会話騒音の苦情や夜９時過ぎには消灯，さらには男女共用トイレしかなかったり，老朽化した設備では耐震上も使用の限界にきているので，何とかサークル会館も含めての同窓会館の新設をというものです。

これには異論は無く，さらに学生にも学生会員（新設）として広い視野からも積極的に会報の編集にもあたってもらうことにしました。特に11月のゐのはな祭は毎年盛大におこなわれております。

全国支部活動の模様は会報をつうじ，また駅前ミーティングなる特色ある記事が好評をえております。なお，支部は平成18年６月で15支部〔平成22年には22支部（秋田，山形，栃木，群馬，茨木，埼玉，千葉，君津木更津，安房，東京，江戸川，多摩，神奈川，静岡，山梨，信州，北陸，中京，阪奈和，四国，九州，沖縄）〕を数えます。

さて平成17年８月に千葉大学医学部創立135周年記念事業会についての協力を要請されました。

それは本学創立85周年を記念した記念講堂の建設から50年が経過する平成21年（2009年）に創立135周年を迎えるので，同窓会として協力してほしいと，徳久医学部長（当時）からお話がありました。

理事会でも検討されたのは，現記念講堂のことです。85周年記念では，記念講堂の建設が第一目標でした。当時から学会をはじめとして，いろいろな行事に集会場はなく市民のためにも公会堂のような使用の出来るものとして利便に供するようにと千葉市にも寄付をお願いすべく，当時の谷川医学部長は，少なくとも1500人程度は収容できるようにしたいと会報にのべられています。しかし実際の利用状況は，ご存知のとおり年間10回程度の現状です。利用しづらい点が多々あるようです。

その一方で学生の使用が主になった同窓会館は，木造で築後55年を経て，土台の劣化は，危険さえも覚えます。19年総会でも写真で説明した通りです。そこで記念事業の優先順位として，校門入口の駐車場に集会施設と宿泊施設の建物をまずつくる，その後に記念講堂などを……という案を検討しました。

そしてさらに新しい趣意書が，伊藤晴夫千葉大学医学部創立135周年記念事業会長より，19年９月にだされました。

以上が記念事業の経過です。一番の懸案事項は，2007年９月のアメリカ発のサブプライムローン問題からおきた怒涛のような世界恐慌です。100年に一度の嵐は，誰も予想できませんでした。

問題は，それでも頭初目標の募金活動に邁進するかです。

優先順位を決め，さし迫った事業である同窓会館建設だけに当面しぼるか……大変な時代となりました。

雑　感

20年１月16日の新聞によれば大学寄付集め競争激化。早大の200億円の目標に証券会社が大学担当部門を設置したり，一方では東大の調査でも，各大学の卒業生で寄付に参加した比率は「10％未満」が40％と低いのが実情と一部紙上で報じ，教職員や新入生の保護者，取り引き企業など集めやすいところから集める形になりがちとのべています。ましてやその後９月からの予想もしなかった世界恐慌への対応には，呆然としている現在です。

医師不足をはじめとする医療荒廃，官僚国家の無責任体制の数々，無能な政治ごっこ。

よほど慎重に計画を重ねて，一歩一歩と進むことが大切でしょう。目標を延ばすことも恐れてはならないと日々思っています。

（わたなべ　たけし）

（元ゐのはな同窓会長：平成15－19年）